

フレキシブルフェース

**完成品****SR-Ⅲ200****(中型・大型・タテ型)****開閉式****取扱い・施工説明書**

このたび当社の製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。





- この説明書は、専門の施工従事者を対象としています。
- 正しく安全に取り付けていただき、また安心してご使用いただくために、この説明書をご熟読の上、手順に従い施工を行ってください。
- 注意事項を守らずに施工された場合の故障や事故については、責任を負いかねますので、よくご理解の上施工管理をお願いします。
- この説明書は、安全維持とメンテナンスのために必要です。大切に保管してください。

説明内容

1. 守っていただきたい注意点	1
2. 使用工具	2
3. 製品の概要	3
4. 施工の手順	4
4-1 アイボルトの取り付け	4
4-2 本体枠と開閉枠の分離	5
4-3 本体枠の取り付け	6
4-4 開閉枠の連結と本体枠の取り付け	8
4-5 展張	10
4-6 額縁の取り付け	13
4-7 結線	14
4-8 シーリング工事	15
5. メンテナンスについて	15

# 1 守っていただきたい注意点

## ■ 警告表示

	<b>警告</b>	・ 重大な事故を起こす可能性があります。
	<b>注意</b>	・ 製品の破損や、けがをする可能性があります。
	<b>禁止</b>	・ 気をつけていただきたい禁止内容です。
	<b>確認</b>	・ 気をつけていただきたい注意事項です。

	<b>警告</b>	本製品は、壁面サインです。建物壁面以外での使用はさけてください。 建物壁面以外での使用は、別途検討が必要です。
	<b>警告</b>	看板を取り付ける壁面は、取り付けに耐えうるか確認していただき、強固でない場合は、胴縁等の下地を施工してください。(看板の脱落により、事故を起こす原因となります)
	<b>注意</b>	看板上面、両側面の壁面側はシーリングを施し、雨水の浸入により、内部を腐食させないようにしてください。(漏電の原因になる可能性があります。)
	<b>注意</b>	施工の際、連結しての吊り上げはしないでください。 (ジョイント部にすき間が生じたり、フレームの変形の原因となります。)
	<b>注意</b>	看板取り付け位置の上部には、10cm のスペースが必要です。
	<b>禁止</b>	当製品の改造はしないでください。使用条件が異なると安全性の再検討が必要です。
	<b>確認</b>	取り付け高さは、地上より看板天端で 8.0M 以下を守ってください。取り付け高さを越えますと、強風時に、看板、面板への影響が高まり、破損、脱落の原因になります。
	<b>確認</b>	電装品は 100V 高力率タイプを使用しています。(縦型は低力率タイプ) 200V では使用できません。200V の場合は電装品の交換が必要です。 当地の周波数(Hz)と安定器の周波数が合っているか確認してください。 漏電による事故を防ぐため、漏電ブレーカーの設置と防水コンセントを使用してください。
	<b>確認</b>	フレキシブルフェースは、ガムテープ等で仮り止めの後、テンションバーにより確実に固定してください。 フレキシブルフェースに、ゆるみ・たるみが生じない様に確認してください。
	<b>確認</b>	テンショニング作業には、インパクトドライバーが必要です。

**いずれも安全に関する重要な内容です、必ず守ってください。**



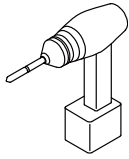
文中のイラストは主に、SR-Ⅲ200(大型)を使用し説明しています。

構造上異なる部分のみ SR-Ⅲ200(中型)、SR-Ⅲ200(大型)と表記しておりますので、お客様の購入された仕様を参照してください。【タテ型は、SR-Ⅲ200(大型)に準じてください。】

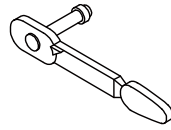
## 2 使用工具

---

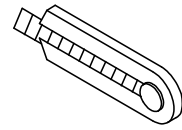
- インパクトドライバー



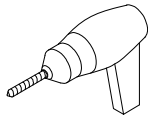
- ソケットレンチ



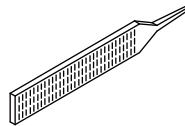
- カッターナイフ



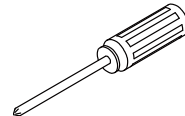
- ドリル



- ヤスリ

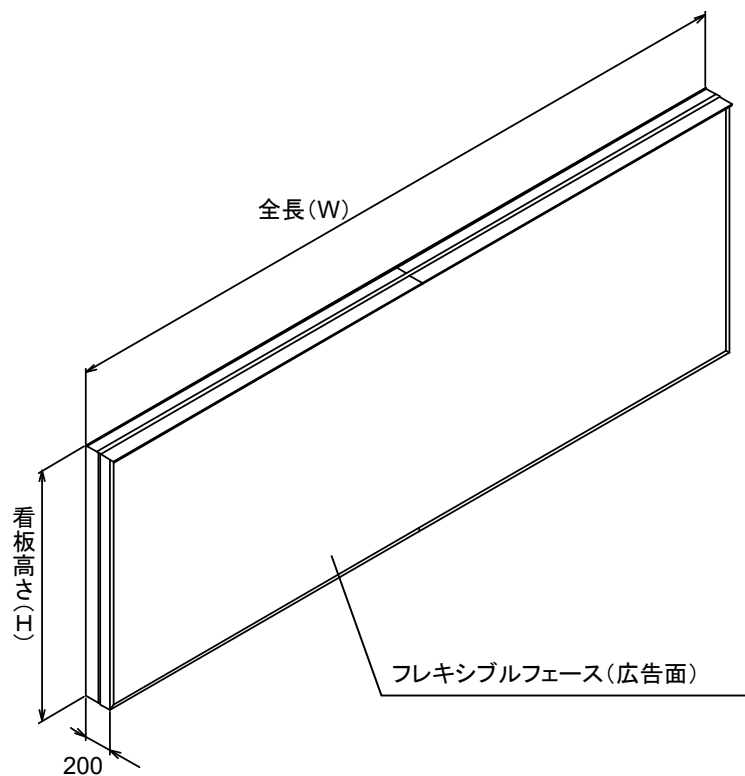


- +ドライバー

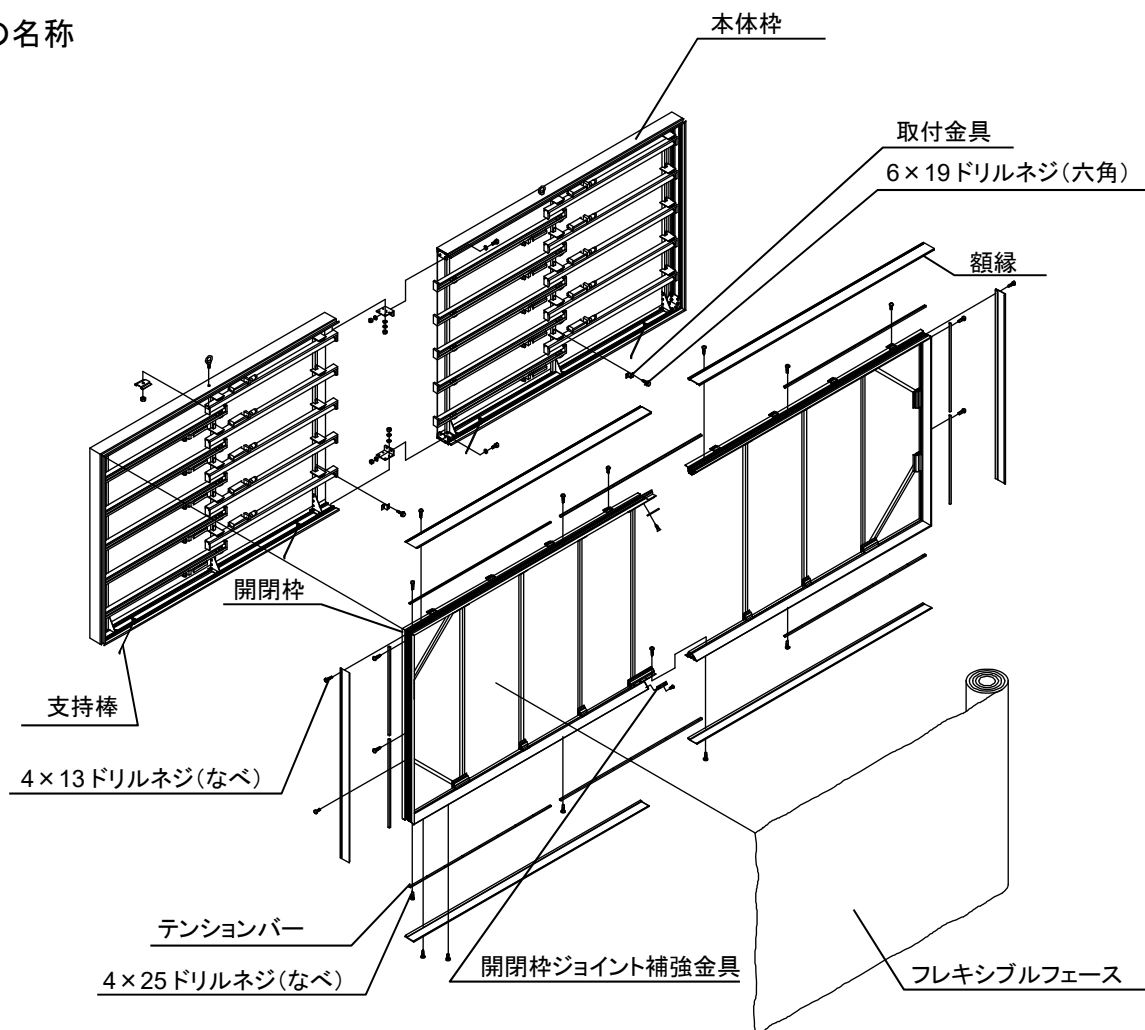


### 3 製品の概要

#### ■ 完了図



#### ■ 各部の名称



## 4 施工の手順

### 4.1 アイボルトの取り付け



#### 警告

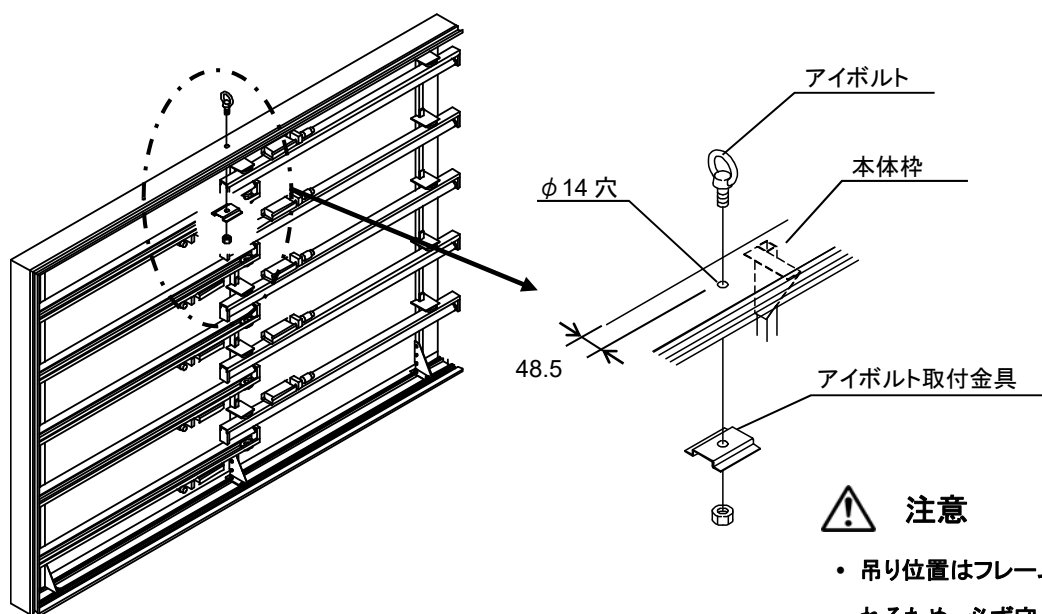
- アイボルトを使用するときは、必ず指定位置に取り付けてください。  
吊り上げ時、本体枠の変形、破損、脱落の原因となります。



#### 確認

- 本体枠に必要以上の負担がかかるため、連結後の吊り上げはしないでください。

- アイボルト用の穴加工 ( $\phi 14$ ) を行います。
- 取付位置は、同梱の図面を参照してください。



## 4.2 本体枠と開閉枠の分離

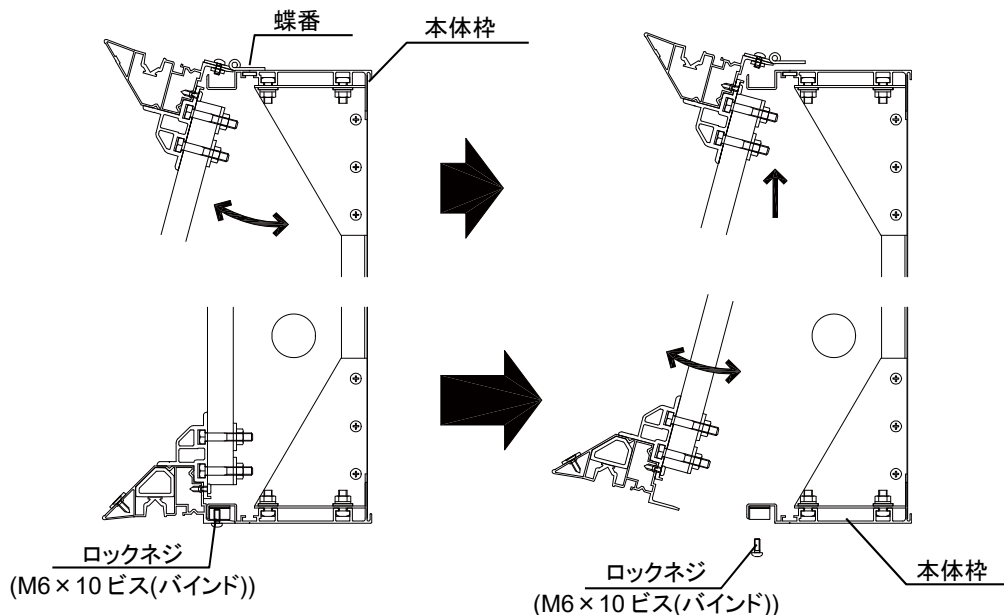
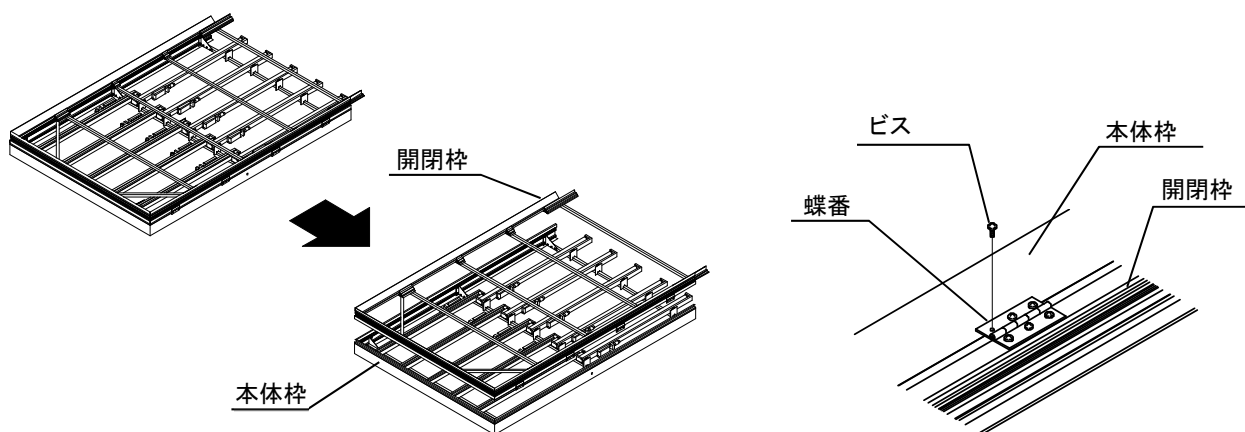


### 確認

- フレームのサイズによっては、シート貼り込み前であれば、本体枠と開閉枠の分離をせずに壁面に取
- り付ける事も可能です。

### 1. 本体枠と開閉枠の分離

- フレームを本体枠(蛍光灯入り部)と開閉枠(表示部)に分離します。開閉枠は上面の蝶番と側面および下面のロックネジ(M6×10ビス(バインド))で固定されています。
- 本体枠側の蝶番を固定しているビスおよびロックネジ(M6×10ビス(バインド))をゆるめ、開閉枠を少し開閉させ、フレームを上部方向に少しずらせると分離できます。



## 4.3 本体枠の取り付け



### 警告

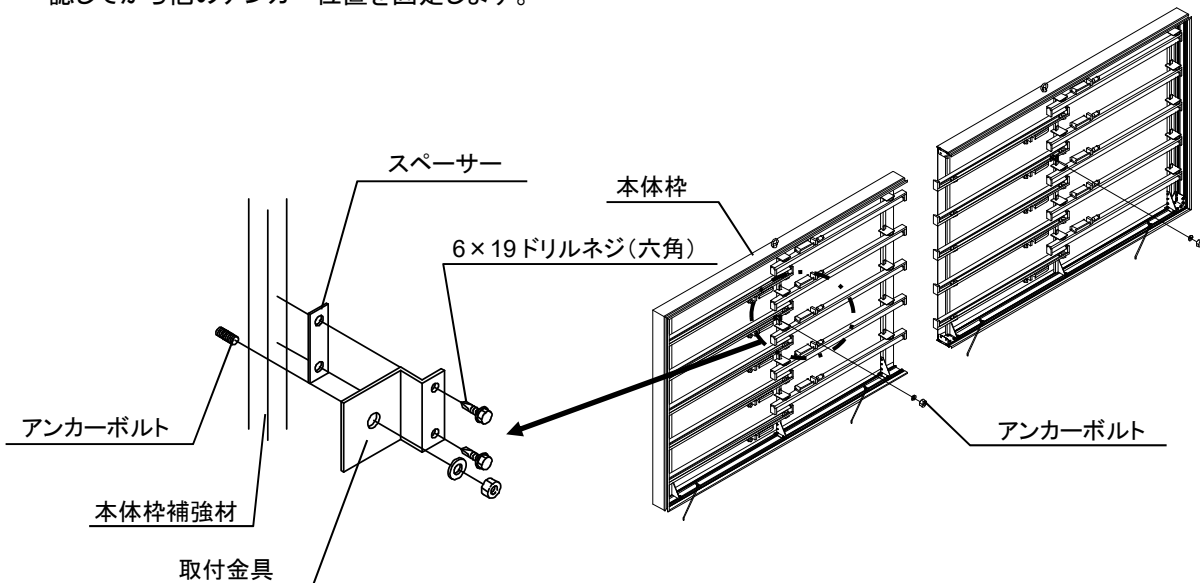
- 本体枠の壁面の取り付けは、専用の取付金具を使用し、強固に取り付けてください。



### 確認

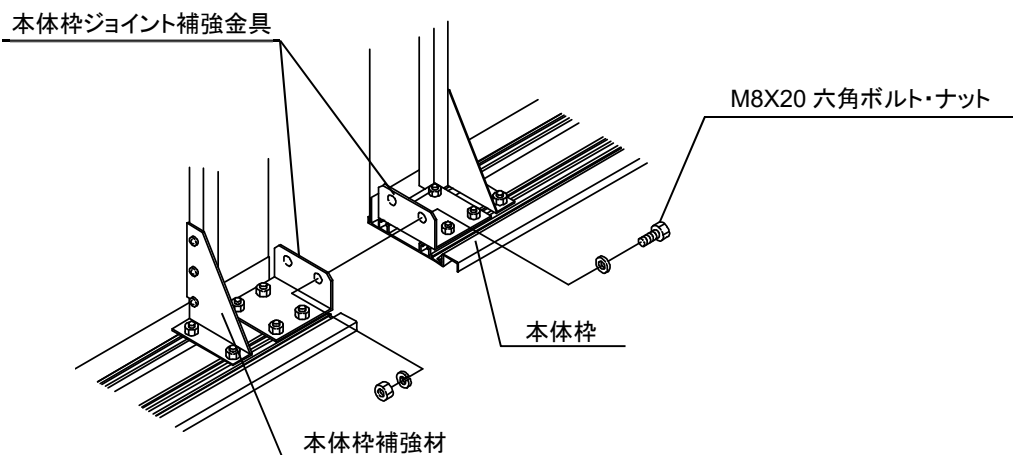
- 連結の際はフレーム同士にすき間ができないように取り付けてください。  
すき間があると、光漏れ・雨水の浸入が生じ、漏電の原因になります。

1. 一次側電源位置を確認後、本体枠側面または裏板部に結線用穴の加工をしてください。
2. 本体枠の壁面への取り付け
  - 専用の取付金具を使用して、壁面への取り付けを行います。
  - 本体枠補強材と取付金具にすき間がある場合は、付属のスペーサーを使用してください。
  - 基準となる本体枠を取り付けます。先にアンカー位置の一カ所を墨出しに合わせて仮止めし、水平・垂直を確認してから他のアンカー位置を固定します。



### 3. 本体枠の連結

- フレームがジョイント式の場合、基準となる本体枠の取り付け完了後、先に本体枠の連結を行ってから、壁面側を取り付けてください。連結作業は、本体枠ジョイント補強金具の上下を M8×20 六角ボルト・ナットにより行います。





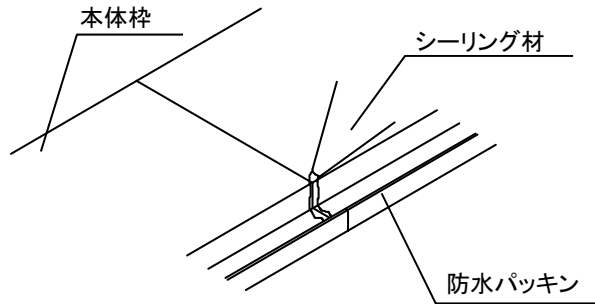
### 注意

- 光漏れの原因となるため、フレームのずれ・空きに注意してください。

#### 4. とい(ジョイント部)のシーリング

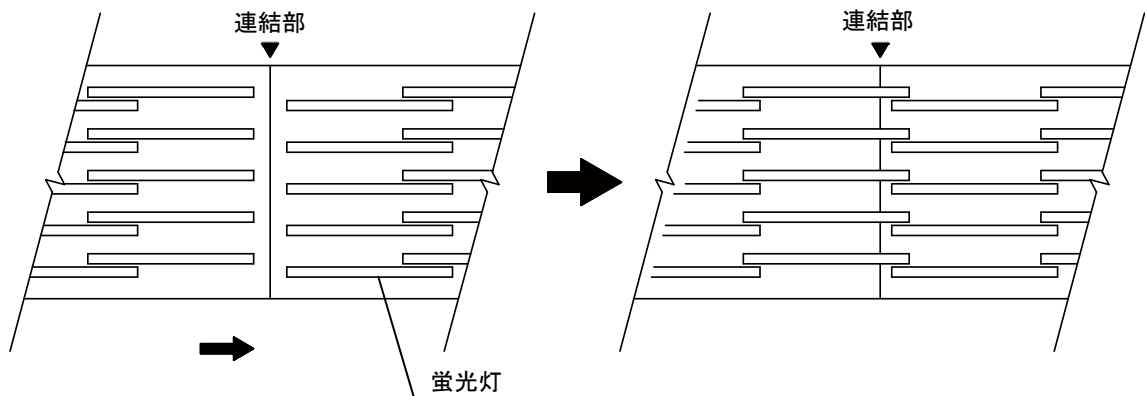
- 雨水侵入防止のため、ジョイント部上部のといは、必ずシーリングを行ってください。

	<b>注意</b>	・シーリングが不十分な場合、雨水の侵入により本体内部の各部品を腐食させ、漏電の原因となります。
	<b>確認</b>	・本体フレームの上部には、防水パッキンを貼り付けています。



#### 5. 連結後の蛍光灯の移動


- 連結後、蛍光灯が重なるように移動してください。






#### 6. 確認

- フレームの傾き、ねじれおよびアンカーボルト、M8×20 六角ボルトのゆるみがないか確認してください。




#### ■ アンカーボルトの選定

	<b>警告</b>	・取り付け下地面は、十分な強度がある事が必須条件です。強度が不足する場合や取り付け部分に下地がない場合は、胴縁等下地工事を行ってください。また、表面に凹凸面がある場合は、スペーサー等を入れ、取り付け面をフラットに仕上げてください。
---	-----------	---

<b>木造</b>	・ コーチスクリュー	M8×60L 以上		確認 必ず取り付け部に耐力のある下地材がある事
<b>鉄筋コンクリート造</b>	・ ホールインアンカー	タイル仕上げの場合		M8 埋込深さ 50~70mm
		打ち放し仕上げの場合		M8 埋込深さ 30~40mm
	・ ケミカルアンカー			M8 寸切りボルト窟孔深さ 70mm 以上
<b>鉄骨+ALC 外壁</b>	・ M8 貫通ボルト	裏面には座金を入れる事		注意 ALC 板は吸水性が大きいので防水処理を確実に する
<b>鉄骨+スパン外壁</b>	・ セルフドリルネジ<テックス>	M6×25~35mm フレーム側に ワッシャー等を入れる事		確認 必ず取り付け部に下地材がある事



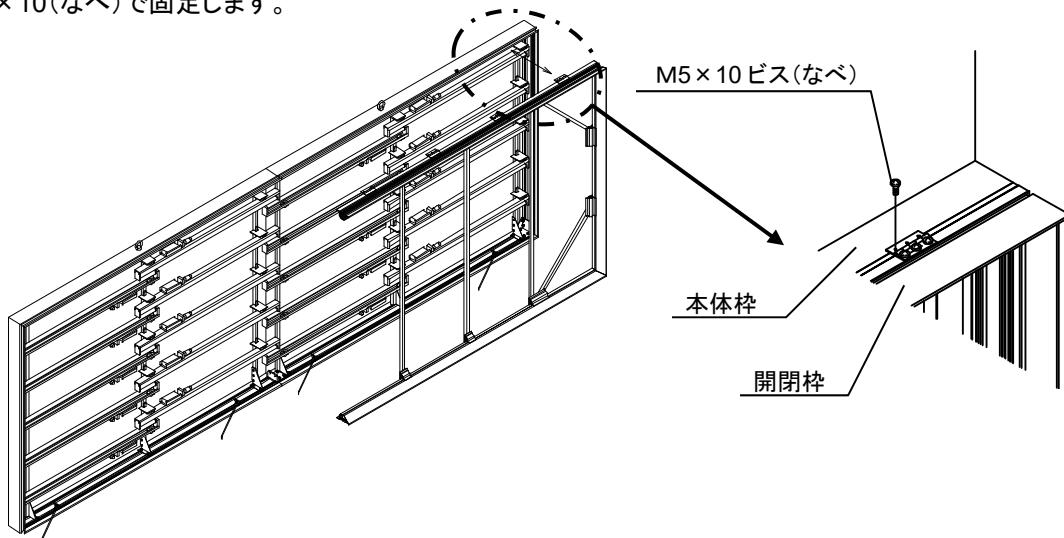
## 4.4 開閉枠の連結と本体枠への取り付け

 <b>確認</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開閉枠のロックネジ(M6×10ビス(バインド))は+ドライバーで、しっかりと確実に締めてください。締め付けが弱いと、強風時に開閉枠が開く場合があります。</li> </ul>
 <b>確認</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開閉枠と本体枠は、蝶番とロックネジ(M6×10ビス(バインド))でしっかりとはめ合わせてください。はめ合わせが悪いと、開閉枠の落下や雨漏り・漏電の原因となります。</li> </ul>
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョイント突き合わせ部に、すき間、ずれがあると、フレキシブルフェースの破損、光漏れ等の原因となります。</li> </ul>

### 【作業手順】

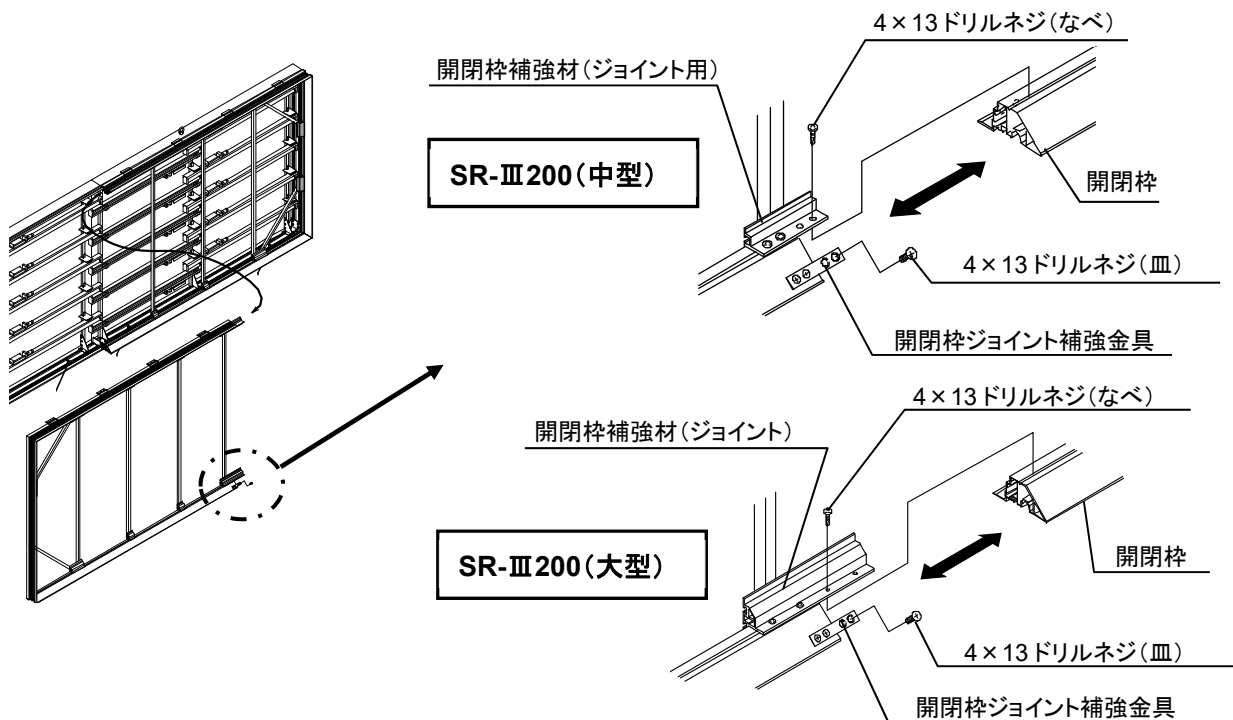
#### 1. 本体枠への取り付け

- 壁面に取り付けた本体枠に対となる開閉枠をセットします、開閉枠側に取り付けられている蝶番の位置を合わせ、M5×10(なべ)で固定します。



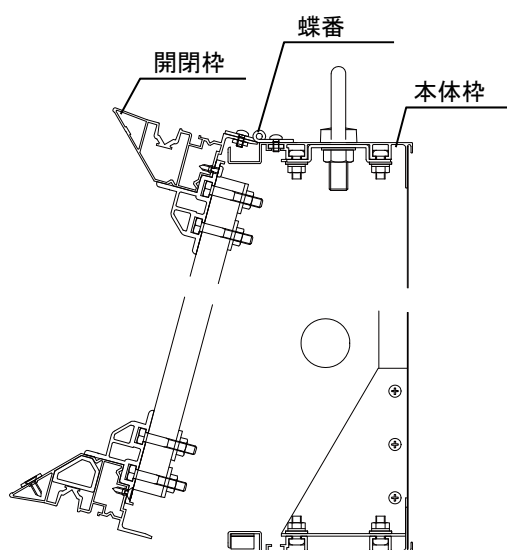
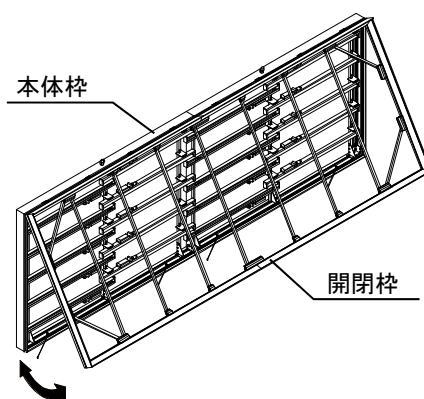
#### 2. 開閉枠の連結

- 開閉枠のねじれや寸法を調整した後に、となりあう開閉枠を開閉枠補強材(ジョイント)および、開閉枠ジョイント補強金具で、4×13ドリルネジを使用して連結します。



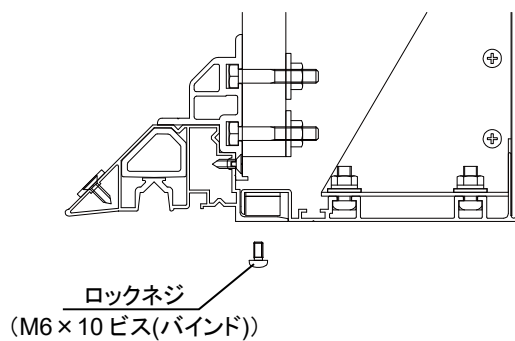
### 3. 開閉の確認

- 開閉枠の取り付け位置を確認し、2~3回開閉テストを行い、はめ込みが完全かを確認してください。





### 4. ロックネジ(M6×10ビス(バインド))の締め付け

- 開閉枠を閉じて、ロックネジ(M6×10ビス(バインド))をしっかりと締め付けてください。



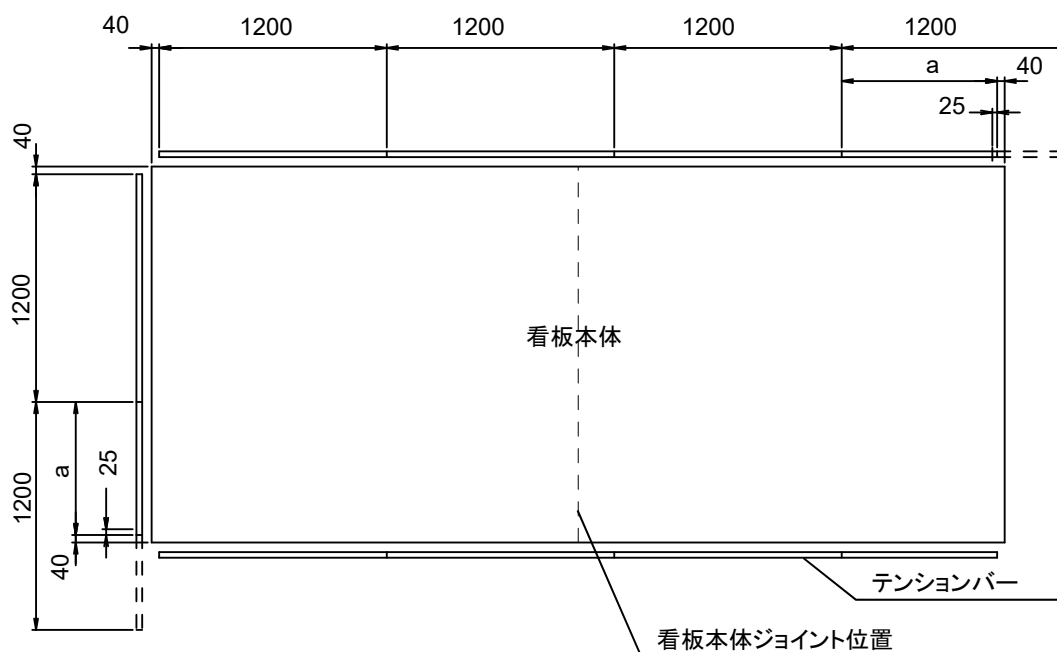
## 4.5 展張

フレキシブルフェースの展張は、通常看板が壁面に取り付けられた状態で行います。

	<p><b>確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テンションビス(4×25ドリルネジ)の挿入は基本的に、下穴加工の必要はありませんが、挿入しづらい場合、ドリル(φ3程度)にて下穴加工を行ってください。</li> </ul>
	<p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>展張後の開閉枠をひねると、フレキシブルフェースがたわみ、しわの原因になります。</li> </ul>

### 1. テンションバーの準備

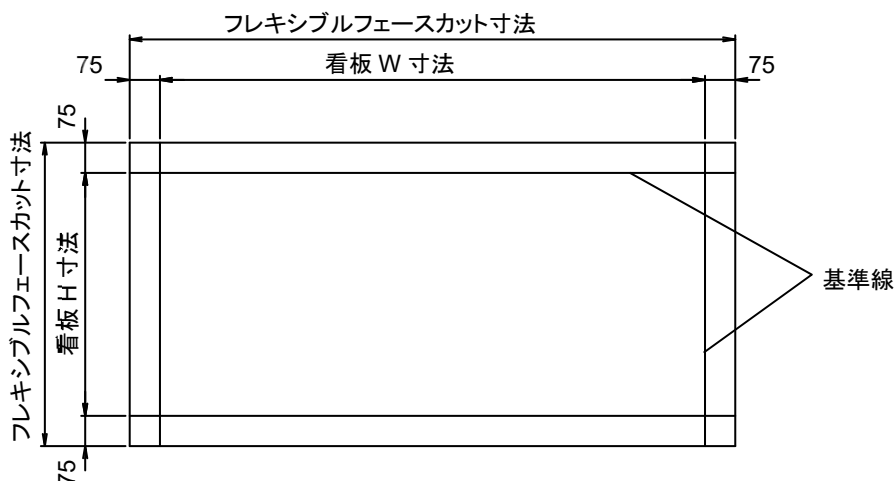
- 「テンションバー」は、1本 1200mm の長さの物が、必要本数用意されています。
  - 「テンションバー」は、両端 40mm あけて全面を押えます。
- 長さの調整は、両端 40mm あけてカットし、端から≒25mm の位置にφ4.5 穴を追加してください。



※a：調整カット後の長さです。

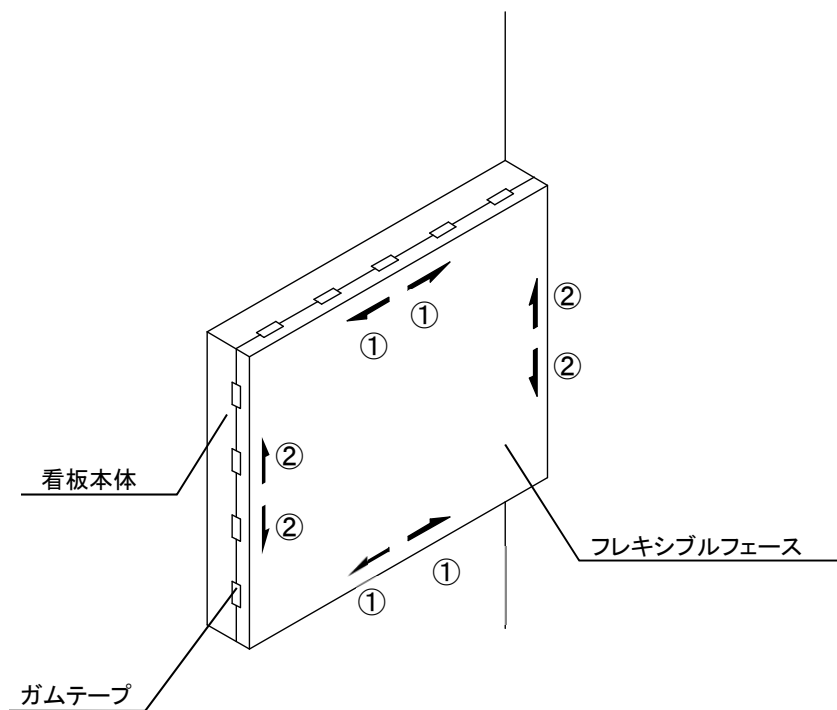
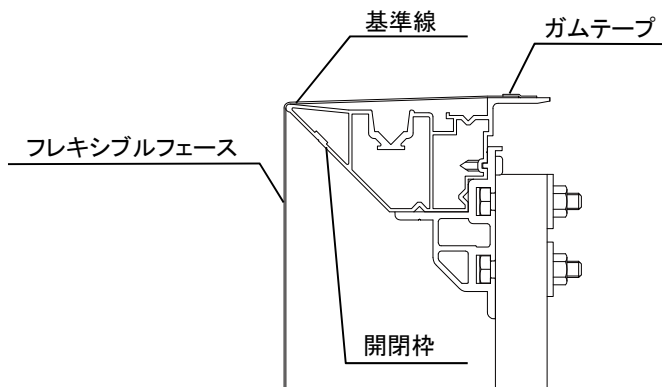
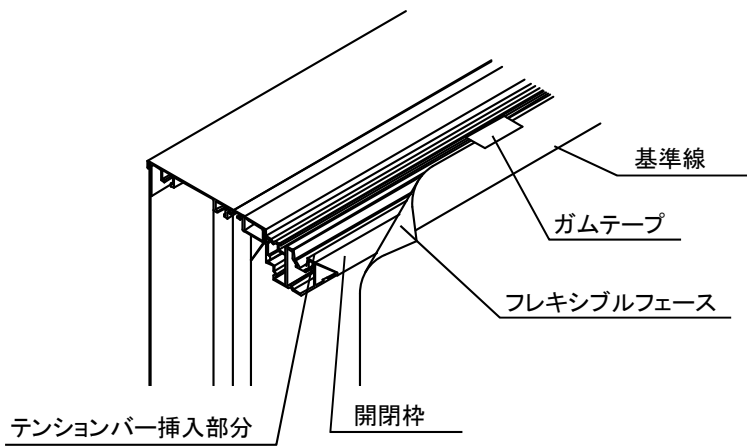
### 2. 基準線の線引き

- フレキシブルフェースの端から周囲 75mm の位置が看板サイズ(基準線)となります。意匠の加工または、テンショニング作業簡略化のため、線引きをする事をお勧めします。



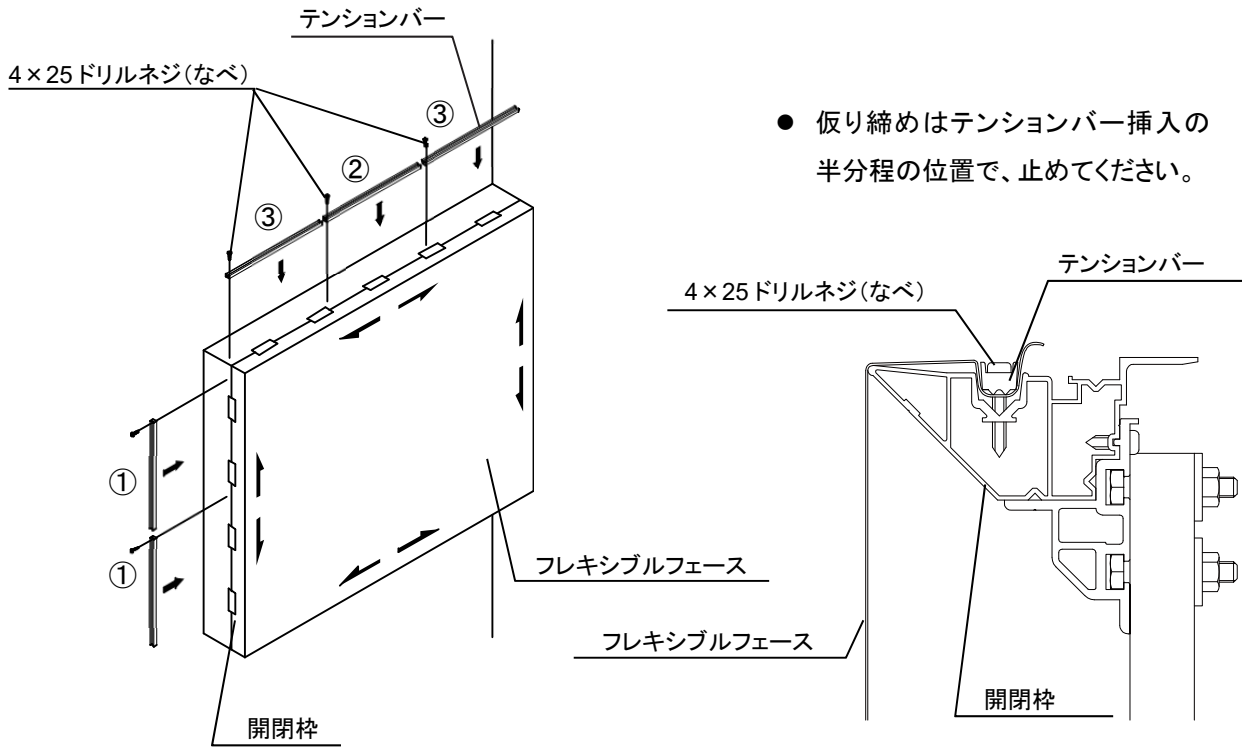
### 3. 仮り止め

- フレキシブルフェースを開閉枠に展開し、ガムテープで周囲を固定します。  
この時、ガムテープがテンションバーの挿入部分にかからないようにしてください。



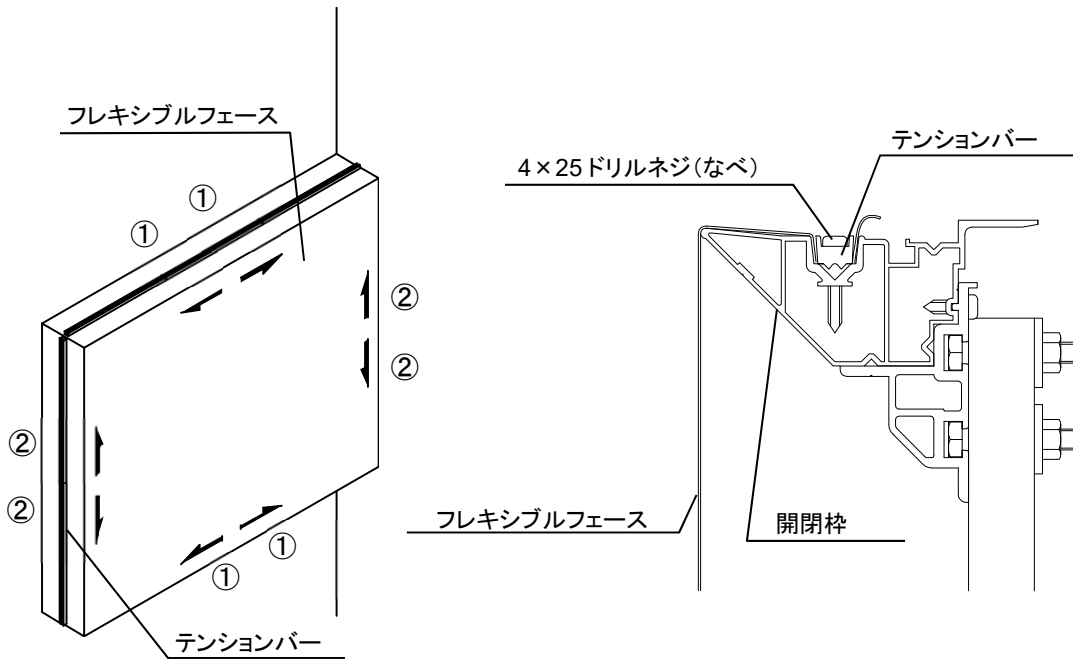
#### 4. 仮締め

- テンションバーは、短辺側センターより両サイドへ向って、テンションビス(4×25ドリルネジ)により仮り締め作業を行います。長辺側も同様にセンターより両サイドへ向って行ってください。



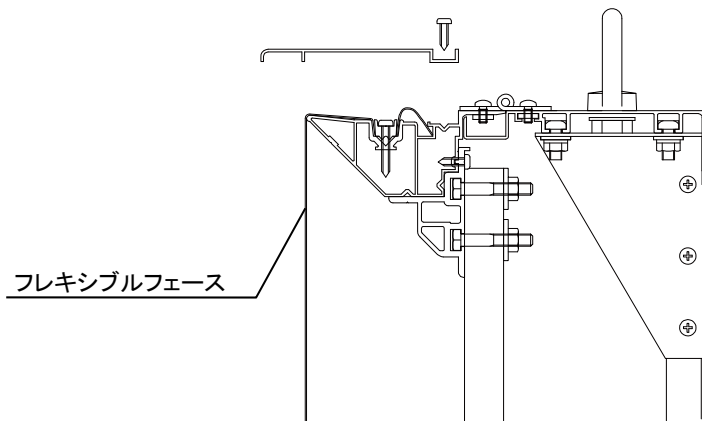
#### 5. 本締め

- テンションバーの、短辺側および長辺側のセンターより両サイドへ向って、しっかりとテンションビスを本締めし、テンションバーでフレキシブルフェースを固定してください。



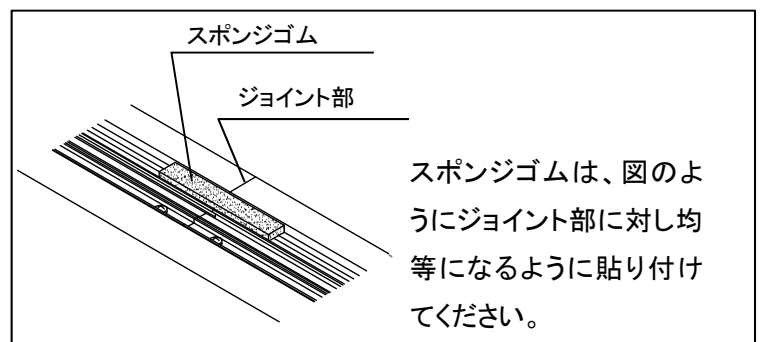
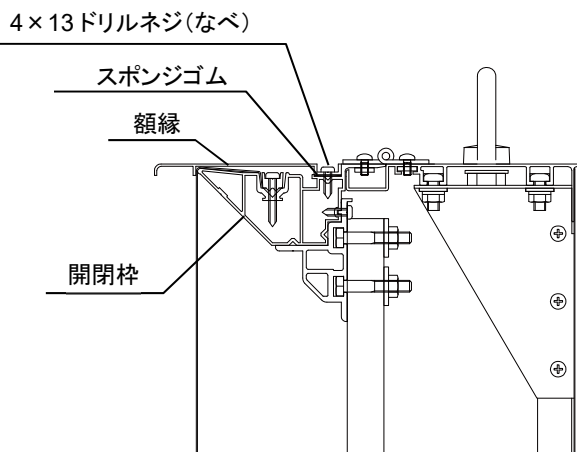
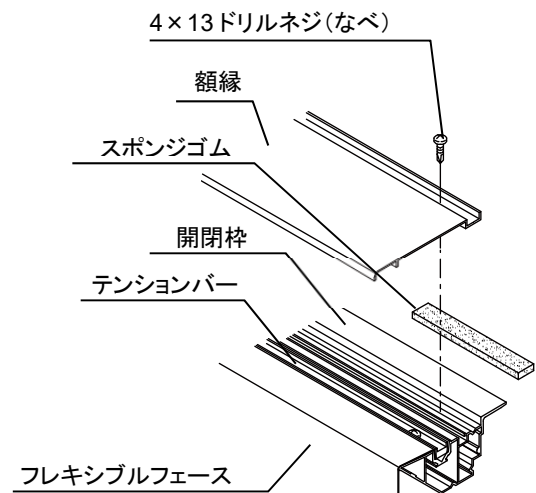
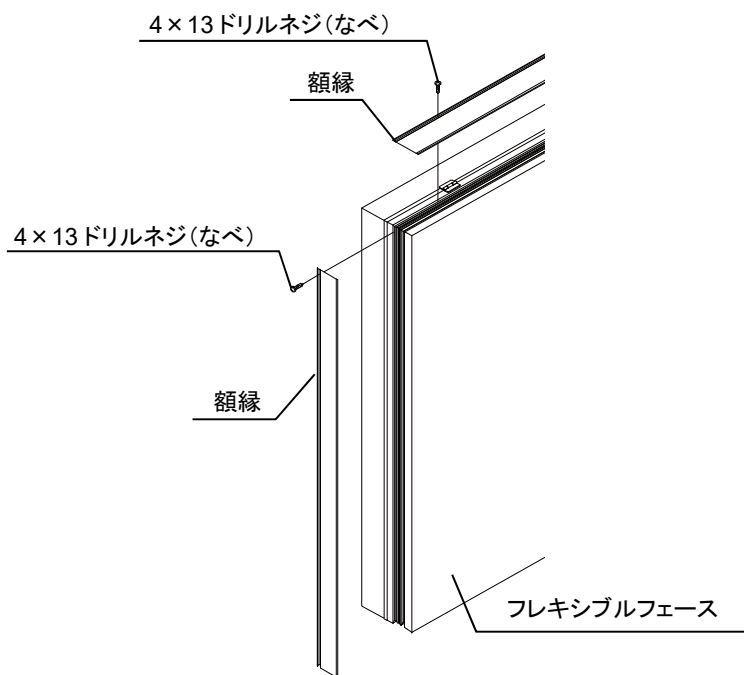
## 6. カット

- フレキシブルフェース展張後の端の余った部分は、後部の溝に挿入するか、額縁取り付けの際、額縁と開閉枠の間に挟み込まない程度の位置で、はさみ等でカットしてください。






### 4.6 額縁の取り付け

額縁を、開閉枠の固定位置にセットし、4×13ドリルネジ(なべ)を使用して取り付けてください。

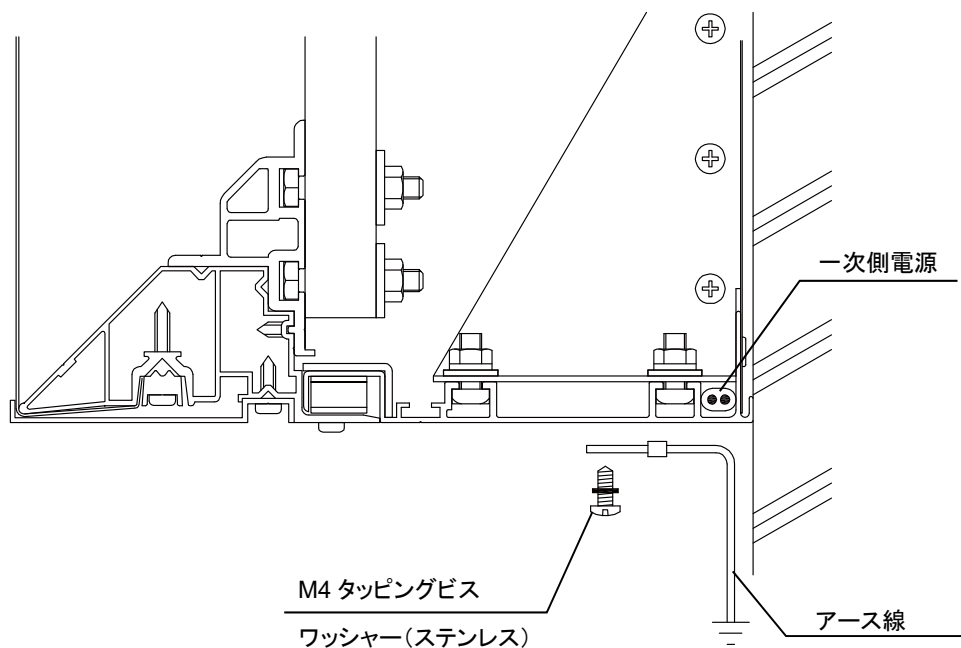


## 4.7 結線

 警告	<ul style="list-style-type: none"><li>結線工事は電気工事士の資格を持った技術者により、電気設備基準に準拠して行ってください。</li><li>フレームから電線を出す場合、ゴムブッシングを使用し、電線の保護を行ってください。電線にキズを付けたり、挟み込んだ状態で使用すると、漏電・火災の原因となります。</li></ul>
 確認	<ul style="list-style-type: none"><li>看板への給電は仕様書に基づき、専用の漏電ブレーカーを設置してください。</li><li>看板側のトラブルが原因で、看板以外の電気製品に被害を与える場合があります。また、火災の原因にもなります。</li></ul>
 確認	<ul style="list-style-type: none"><li>アースは必ず設置してください。</li><li>結線終了後は必ず点灯、漏電のチェックを行ってください。</li></ul>

### 【作業手順】


1. 看板本体がジョイント式の場合、看板内部の結線および一次側電源の結線を行います。
2. 一次側電源を ON にし、点灯試験を行います。点灯しない場合は、必ず一次側電源を OFF にし、再度結線がされているか確認してください。
3. 電源コードがフレキシブルフェース面に接しないよう適所ごとに固定してください。
4. フレーム底面の適当な位置にアース端子接続用に M4 タッピングビス(ステンレス)を取り付け、アース線を使用しアースをとってください。

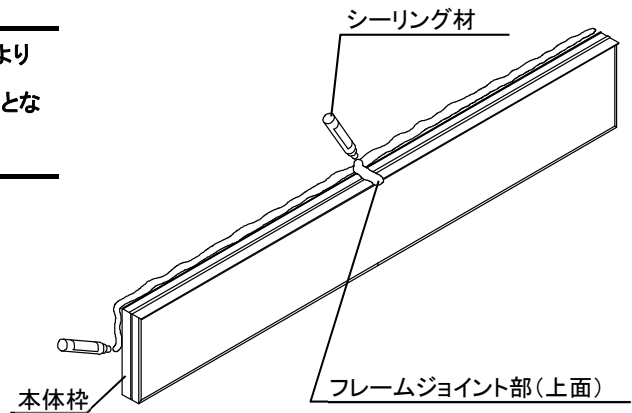


## 4.8 シーリング工事

### 【作業手順】

雨水浸入防止のため、躯体と本体枠(上面・側面)およびフレームジョイント部(上面)にシーリングを行ってください。




 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>シーリングが不十分な場合、雨水の浸入により本体内部の各部品を腐食させ、漏電の原因となります。</li></ul>
---	--



## 5 メンテナンスについて




### ■ 蛍光灯の交換について

- 下部ロックネジ(M6×10ビス(バインド))をゆるめ、開閉枠を開いてください。
- 支持棒固定用の蝶ナットをゆるめ、支持棒の先端を開閉枠裏面の支持棒受けへ差し込み、再度蝶ナットを締め付け、支持棒を固定してください。
- 蛍光灯は昼光色をお使いください。蛍光灯の交換と同時に、グロー球の交換もお勧めします。
- 完了後、支持棒を収納し、開閉枠を閉じ、ロックネジ(M6×10ビス(バインド))で完全に固定してください。

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>メンテナンスを行う際は、電源を切り、作業を行ってください。</li></ul>
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>開閉枠の開閉作業を行う場合は、指などはさみ、けがをする場合がありますので、十分に注意してください。</li></ul>
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>支持棒の外れをふせぐため、蝶ナットは確実に締め付けてください。作業中、支持棒が外れる可能性がありますので、支持棒へは必要時以外は触れないでください。</li></ul>

### ■ 清掃について

- うすめた中性洗剤を含ませた、柔らかい布またはスポンジにより、表面の汚れを拭き取ってください。

 <b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>フレーム内部には、直接水をかけないでください。漏電の原因となります。</li></ul>
 <b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>シンナー等の溶剤は使用しないでください。</li></ul>
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>開閉枠および本体枠の内部を清掃する場合は、必ず電源を切って作業してください。</li></ul>



= MEMO =

= MEMO =

= MEMO =

●製品は改良のため、予告なしに仕様変更する場合がございます。予めご了承ください。

●製造元

 **三和サインワークス株式会社**

**東京営業部** 東京都港区港南2丁目15-1 (品川インターシティ A 棟 30F)  
〒108-6030 TEL (03) 5783-3001(代) FAX (03) 5783-3010(代)

**大阪営業部** 大阪市北区梅田3-1-3 (ノースゲートビルディング 16F)  
〒530-0001 TEL (06) 6453-3002(代) FAX (06) 6453-3022(代)

**福岡営業所** 福岡市博多区博多駅中央街7番21号 (紙与博多中央ビル 9F)  
〒812-0012 TEL (092) 472-7277(代) FAX (092) 472-7278(代)

**京都工場** 京都府綴喜郡宇治田原町大字岩山小字釜井谷1-44  
〒610-0261 TEL (0774) 99-7702(代) FAX (0774) 99-7712(代)

**埼玉工場** 埼玉県入間市宮寺字宮ノ台4030 (武蔵工場団地内)  
〒358-0014 TEL (04) 2934-5311(代) FAX (04) 2934-5313(代)

**つくば工場** 茨城県かすみがうら市加茂5289-1  
〒300-0198 TEL (029) 828-1615(代) FAX (029) 828-1289(代)

ホームページアドレス

<http://www.sanwa-signworks.co.jp/>

メールアドレス

[info@sanwa-signworks.co.jp](mailto:info@sanwa-signworks.co.jp)